

☆ 高校2年生 修学旅行に行きました ☆

10月27日から30日まで、高校2年生が奈良・京都の修学旅行に行きました。日本の伝統や文化を感じただけでなく、自然の豊かさや人々の優しさにも触れた旅行となりました。中学・高校生活最後の宿泊行事は、一生の思い出となる4日間だったようです。

この記事では、修学旅行3日目と4日目、そして修学旅行を通しての感想を紹介します。



●○ 修学旅行3日目 ○●

京都市内班別自主研修

室町時代に生まれた懐石料理や江戸時代に生まれた会席料理など、昔の日本料理の形式が現代でもそのまま引き継がれているのだと実感できた。

(C組 S.O.さん)

銀閣でWABI SABIを感じた。外国人が金閣に集まるのに対して、銀閣は日本人に人気があったのは、やっぱり日本人がWABI SABIを根本に持っているからだと思う。

(C組 M.T.さん)



金閣寺は見た目も綺麗で、日本ならではの特徴や雰囲気がありました。清水寺では、胎内めぐりで、暗闇の中を歩くことで自分自身の光を感じることができました。日本に限らずですが、昔から素晴らしい彫刻や模様がたくさん作られており、今も変わらず素晴らしいものが日々作られています。それを続けていくためには、私たちも色々なことに挑戦して、自分ができるもの、得意なことを伸ばしていくことでこれからも素晴らしい、日本らしいものが作れると思います。

(E組 M.H.さん)

和食マナー講座

私はあまりマナーとかよく分かっていませんでしたが、昔から相手に失礼のないように楽しく食事をするという考えからこのマナーが続いてきたのだと思うので、私もマナーをしっかりと覚えておきたいと思いました。

(E組 M.F.さん)

●○ 修学旅行4日目 ○●

4日目は、実行委員がツアーコースを企画しました。

世界遺産仁和寺行って京菓子体験！

和菓子の模様をつけるための、木で作られた道具があって、職人さんが「一度これをもったら一生使い続けるものだから愛用している」ということを仰っていて、道具を大切に長く使い続けるからこそ作品に職人技が現れるのだとわかった。
(B組 MN.さん)

染めますあなたの心♥

今まで布を液体につけて染めるというイメージだったのですが、液体につけるのではなく、筆のようなもので色をつけていくという、私にとっては新しいもので印象的でした。昔の文化である友禅染が、技術が発展している現在でも存在していることに感動して、おそらく友禅染も能のように変化し続けて、現在にまで残ったのだと考えました。
(D組 H.Y.さん)

陶芸道 ~U know me ぢやわんへのみち~

湯呑みづくりの先生が初めに手本を見せてくれたときは簡単そうだったのに、実際にやってみるとポコポコの変な形になってしまい、何度も直してもらう始末だった。伝統的な技術というのは、口先や品物だけではなく、直接手と手で教えて伝えられていくものだと実感しました。
(A組 WL.さん)

今日の風薫る京扇子コース

和紙に絵を描くことはあまりないのでとても楽しかった。これから職人さんの手で組み立てられて、自分に送られてくる完成品を見るのが本当に楽しみです。実行委員で企画したときは、実はこのコースは一番人気がなく、あまり希望していない子もたくさんいたけれど、みんな楽しいといってくれて本当に良かったです。
(C組 SM.さん)



いざ西陣!!! ~京の織りなす歴史の旅~

思っていたよりも難しくなく、楽しく体験できました。織っている時はとても心が落ち着いたので、昔の人もこういう風を感じながら織っていたのかなと思いました。西陣織が昔栄えていた時は川の水の色が変わっていたと聞いて、今はそうはならないけれど、今も西陣織が残っていて良かったなと思いました。
(E組 SR.さん)



●○ 修学旅行全体を振り返って ○●

日本の歴史・伝統・文化とは

今回の修学旅行を通して感じた「日本の歴史・伝統・文化とはどのようなものか」、外国の方に説明するつもりで書いてもらいました。

日本の文化の特徴の一つは、自然との調和だと思います。食事は自然そのものの味を残してシンプルに作られ、建物は自然のものから作り、最終的に自然に還るからです。日本人は桜の花のように散り際があるのが好きだと言われるので、後世に残らないものの方が多いように感じますが、今でもなお多くの伝統が守られているのは、伝統そのものを残すということよりも、伝統を人に伝えていくという意志があったからだと思います。

(A組 C.T.さん)

日本人は細部までこだわりを見せます。誰も見ないような所までもこだわり抜くという精神は今でも受け継がれていると思うし、景観や、サービスにまで反映されているように感じます。金閣寺など、ただ金ピカなだけではなく、湖の上に立つと、岩があり、それは無造作にはではなく全て計算し尽くされたものです。

(B組 R.H.さん)

If you express Japanese culture in one word, it would be "humble". There is always something or someone put before their own existence. Even though it is usual for humans to care for themselves most, Japanese culture is a little different.

(C組 E.S.さん)

日本は古来からの「他人を配慮し、気遣うという文化」を大切にし、現在の和食のマナーにもそれは表れています。また、能やその他の昔から続く伝統芸能も少しずつ時代に合わせて変えながら現在に至るまで受け継がれています。日本はそういった先人が築いたものを絶やさないように大切に守り続ける国です。

(D組 A.K.さん)

日本は昔から、自然の美しさや能のような楽器や踊りの繊細さをとても大切にしています。そういったものを守ろうとする気持ちは、現代の日本にも通じていて、京都の祇園ではその街並から、二条城や仁和寺では城や寺の荘厳さを引き立てている自然から感じることができます。日本人の細やかで優しさのある心を、人々や建物、自然などから感じてほしいです。

(E組 S.N.さん)

日本の伝統や文化の特徴として、見た目の美しさということの内側に人々の思いや祈りが濃く込められていることがあると思います。お寺にしても、庭にしても、職人の技にしても、神様への祈りだったり、おもてなしの心だったりというような、日本で独特に発達したものが、結果として静かでありながら迫力を感じるものを生み出していると思います。

(F組 N.H.さん)

修学旅行全体の感想

世界史選択である私にとって、この修学旅行はそれほど得るものはないだろうと思っていましたが、全くの見当違いでした。私は帰国生であり、小学校のとき日本史をほとんど勉強せずにいて、日本文化にあまり興味を持てずにいました。しかし、能の河村さんもおっしゃっていましたが、日本人であるのに日本のことを知らないでいて、本当に私は真の日本人なのか、とふと考えたとき、私は全然日本のことを誇りに思っていないことに気がきました。日本は何千年もの間一つの国として存在していて強い芯を持っています。一方で、時代の流れに対応し、伝統芸能などをその時代に合わせて変化させています。外国の影響を受けながらそれを“日本風”にアレンジできるのも強みです。京都と奈良を訪れたことで日本のすばらしい部分を知れて、私の「日本ってつまらない」という概念が良い意味で崩れ落ちました。座禅や能、様々な寺社に行ったことで、日本文化の意外性、神秘性、そして壮大さを身をもって実感できました。これでもまだ日本文化をすべて知ったことにはならないので、これからもっと学び、学んだことを世界に発信できる日本人になりたい、と思います。

(A組 SI.さん)

京都・奈良は私にとっては3回目の訪問でした。初めて行ったときから京都は私の大好きなまちですが、今回もまた前回とも前々回とも違う京都の良さを知ることとなりました。以前京都に来たときに注目していたのは「もの」や「場所」でした。しかし、有名な観光スポットは行き尽くした今回は「人」に注目した旅になりました。能を紹介して下さった方、友禅染の職人さん、寺社の関係者の方など多くの京都の方と触れ合う機会がある中で、彼らの文化の担い手としての意識の高さや誇りのようなものが感じられました。京都のまちが、世界中に多数ある観光名所の中で1位に選ばれたのはただ多くの名所があるためだけではないと思います。名所は変わらなくて、人々は変わって行くけれど、そんな人々を含めて文化なのかなどと思いました。

(B組 SI.さん)

今回の修学旅行に行って、自分は本当に日本人でもあるんだなと感じました。

海外でほとんど育てられていたので、自分は日本人になれないなという思いが多く、あまり興味もありませんでした。でも、実際に京都に行ってみて、日本の文化を知り実際に理解ができる場所があって、日本人として認められた感じがしました。海外にも日本のことを伝えたいと強く思うようになったので、もっと歴史に興味をもって、日本を知るようにこれからもいろいろ学んでみたいと思いました。

(C組 MT.さん)

今まで学んできたことがこの修学旅行をとっても深いものにしてくれました。日本史の知識だけではなく、橋や川、能や寺院などがことわざのもとになっていたり、私たちの身近な言葉のもととなっていたり、とても感動することが多くありました。また、全く関係のないような時代の文化や建物が、様式や伝統工芸などでつながっていたり、一つ一つのことが全て私たちの現在の生活にもつながっているのだなと印象的なことが多くありました。多くの学びをいかして充実したものにできたと思います。

(D組 M.W.さん)

今回の修学旅行ではたくさんのお寺や古墳を見て回りました。特に印象深かったのは二条城です。私は日本史にさほど興味があるわけではないので、お寺などに対して特別感動するということはなかったのですが、二条城の庭園に対しては感動に近い気持ちを抱きました。見渡す限りすべての場所で木や石がきれいに配置されていて、世界中すべてがこんな美しい風景だったら争いは起こらないのではないかとも思いました。また、京菓子体験も最も心に残っているものの一つです。一番難しかったのはお菓子を与えられた箱に入れること。どんなに気をつけても丁度よい大きさにできなくて、一つひとつを人間の手で作っている和菓子はそんなところにまで気を遣わなければならないということに初めて気づかされました。

洗足生活最後の宿泊行事でしたが、京都で時間が止まってしまえばいいのにと考えるほど充実した楽しい修学旅行になりました。この思い出を武器にこれからはお勉強を精一杯頑張ります。

(E組 N.S.さん)